

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	ひわちやきかせせん 日和茶坂瀬線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市(旧東祖谷山村・旧西祖谷山村)																	
事業概要	【目的】 本路線は三好市東祖谷落合の県道三加茂東祖谷山線を起点とし、同市西祖谷山村坂瀬の県道腕山宮石線を終点とする森林基幹林道で、この林道の開設により、既設道路との相互連絡により地域路網の体系化を推進し、広域的な木材等林産物の需給体制や林業機械の輸送体制を確立し、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進することを目的とする。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 20%;">3,466ha</td> <td style="width: 50%;">[人工林面積:1,687ha (49%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>381戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>32,700m</td> <td>(うち平成30年度末の供用予定延長 24,398m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>6,250,000千円</td> <td>(うち平成30年度末の実施予定事業費 5,256,787千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成2年度～平成41年度</td> <td>(40年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	3,466ha	[人工林面積:1,687ha (49%)]	受益戸数(森林所有者数)	381戸		幅員	4.0m		計画延長	32,700m	(うち平成30年度末の供用予定延長 24,398m)	総事業費	6,250,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 5,256,787千円)	事業予定期間	平成2年度～平成41年度
利用区域面積	3,466ha	[人工林面積:1,687ha (49%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	381戸																			
幅員	4.0m																			
計画延長	32,700m	(うち平成30年度末の供用予定延長 24,398m)																		
総事業費	6,250,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 5,256,787千円)																		
事業予定期間	平成2年度～平成41年度	(40年間)																		
事業評価	【事業の進捗状況】 起点側落合地区で3,332m、奥ノ井地区で3,238m、佐野地区で9,812m、終点側坂瀬地区で8,016mが供用され、平成27年度より新たに与市谷工区を着工し、路線全体では、24,398mが完成供用を予定している。平成20年度から坂瀬工区において境界問題により工事を休止している。公共事業の伸び悩み等により事業予算が減少していることや当路線の地形は急峻で地質も脆弱なため開設単価が割高となり施工延長が伸び悩んでいる。 <div style="text-align: right;">[進捗率:74.6%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 供用区間では、林業プロジェクトによる作業路整備により主伐や搬出間伐が行われており、これまでに延べ1,553haの森林整備が実施されている。高野工区内にある国有林では、主伐による素材生産が行われている。																			
事業評価	【社会経済情勢の変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も高いことから、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展と併せて、土砂災害の防止や温室効果ガスの固定など、森林の有する多面的機能の維持が強く期待されている。 ・森林資源は、人工林を中心に、この40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超える見込みとなるなど、成熟期を迎えている。 ・また、県内には製材業や家具製造業が古くから発達しており、「合板工場」や「MDF工場」のほか、「大型製材工場」の進出など、多様な加工体制を有している。 ・円安の進行や社会情勢の変化などによる国産材需要は増加傾向にあり、さらなる県産素材の供給強化が求められていることから、木材の効率的な生産・加工・流通の実現に向けて、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが重要となっている。 ・県では、平成27年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「新次元林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。 ・目標を達成するうえで、木材生産にあたっては、より生産性の高い「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備と普及を進めており、高密路網の中核を成す林道整備が必要不可欠となる。 																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
事業評価	【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用して、平成2年度から平成29年度までに延べ1,553haの森林整備を実施している。今後、供用区間が増加するに伴い、さらに森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.22 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 林道の開設が進むことで森林へのアクセスが向上することにより、森林所有者の関心が高まり森林施業の実施に繋がる。このことから、適正な森林管理が行われ長期的な森林資源の循環が行われると共に森林資源の向上に繋がる。このことにより雇用も安定し林業関係は勿論のこと地域全体の活性化が図られる。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから地元三好市をはじめ森林所有者等も林道の開設を強く望んでいる。																			
事業評価	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																			
	-1-																			